

今日のトピック 豪州のGDP成長率（2016年7-9月期）

足元は不調だが、今後は回復に向かう見通し

ポイント1 5年半ぶりのマイナス成長
設備投資、政府支出の不振による

- 2016年7-9月期の豪州の実質GDP成長率は前期比▲0.5%となり、市場予想の同▲0.1%を下回りました。マイナス成長は、同▲0.2%となった11年1-3月期以来5年半ぶりです。
- 資源価格の下落により資源セクターの設備投資が大きく落ち込んだうえ、輸出が伸び悩んだこと、政府支出が減少したことが主な要因です。

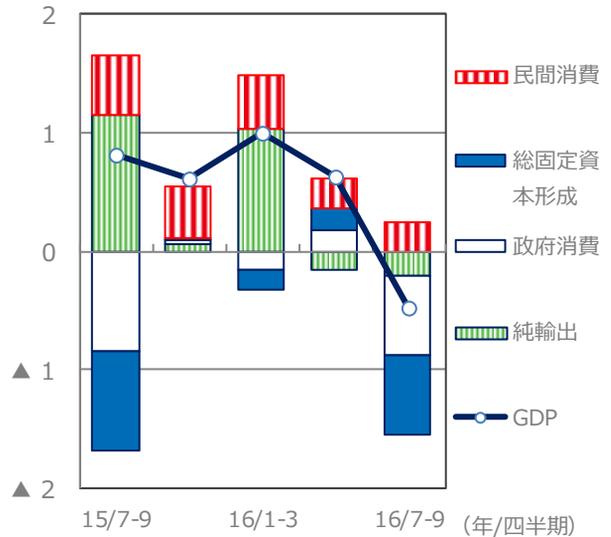
ポイント2 来年から成長率再加速へ
資源価格の持ち直しが貢献

- 豪州準備銀行（RBA）は、12月6日に開かれた金融政策決定会合で、年末にかけて国内景気は鈍化するものの、「2017年から拡大ペースは再加速」との見通しを明らかにしました。
- 雇用の改善や金利低下により個人消費が拡大基調を維持することに加え、天然資源価格の持ち直しや設備増強に伴う液化天然ガス（LNG）などの資源輸出の増大で、資源セクターの立ち直りが期待されるからです。政府部門も、新たな歳出削減の強化をしていないため、回復に向かう見込みです。

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- GDP統計発表直後の豪ドルは、成長率が事前予想を下回ったため、円や米ドルといった主要通貨に対して下落しました。ただ、資源価格の上昇が下支えとなり、下落の幅は極めて小幅にとどまりました。
- 今後は、国内景気の復調に加え、トランプ次期米大統領の財政支出拡大に伴う世界経済の拡大期待等から、豪ドルは底堅く推移する見通しです。

(%) 実質GDPと需要項目別の寄与度



(注1) データ期間は2015年7-9月期～2016年7-9月期。
総固定資本形成 = 設備投資 + 住宅投資 + 在庫投資。
純輸出 = 輸出 - 輸入。

(注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(円/豪ドル) 豪ドルの対円レートと鉄鉱石価格 (米ドル/トン)



(注) データ期間は為替レートが2015年3月2日～2016年12月7日。2016年12月7日は日本時間13時30分時点のレート。鉄鉱石が2015年3月2日～2016年12月6日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年12月 6日 豪州の金融政策は前月に続き据え置き (2016年12月)
2016年11月30日 アジア・オセアニアの株式市場 (2016年11月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。